

首都圏土壤医の会中期3か年計画

基本理念

1. 会員相互の連携を密にし、会員の土づくりに関する課題解決力を高める。
2. 土壤医の認知度向上と社会的地位の向上をはかる。
3. 地域の農業・農村、都市農業、市民農園、福祉農園、家庭菜園、都市公園、自然公園、ガーデン等土づくりを必要とするあらゆる現場の活性化に貢献する。

基本方針

コロナ禍により活動が制約されている中、土づくりを必要とするあらゆる現場の活性化を進めるために、ICT等を活用し会の活動を活発化させ、新たな会員を受け入れ、それによりさらに活動が活発化するという、スパイラルアップの組織に変える。

このために、

- ① 首都圏土壤医の会の目的を、広く土づくりを必要とするあらゆる現場の活性化に貢献することとしたことに合わせて、活動の幅を広げていく。
- ② 土づくりに関する課題解決力を高めていくために、研鑽活動、交流活動を活発化させる。
- ③ 会員の活躍の場を創出するとともに、それに対応する会員個々のスキルの向上をはかる。
- ④ 広く会の活動を紹介し、土壤医と首都圏土壤医の会の認知度向上をはかり、会員を増加させる。
- ⑤ 人材、人脈を積極的に確保し、活動の活発化と拡がりに必要な会の対応能力の向上をはかる。
- ⑥ 会の活動の活発化に対応できる業務執行体制を確立する。

具体的目標 中期計画期間 令和3年度～令和5年度

- ① 会の満足度調査により、回収率60%以上、満足している80%以上を目指す。
($60\% \times 80\% = 48\% \div 50\%$)
- ② 会員総数を100名以上とする。

基本施策

1. 意思決定のシステム

①定例理事会の開催

定期的に理事会を行う。

理由 イベントごとに理事会を開催していたが、業務の多様化に合わせて計画的に実行するために、定期的に理事会を行う。

②意見交換会の設置

理事会の開催に合わせて、必要に応じ会員の意見を聞く機会を設ける。

理由 会員の意見を聞くことで、迅速に会員の意見を業務に反映させる。また、会員の参加意識を高める。

2. 業務遂行体制の確立

①相談役の設置

特定の業務について、理事会の業務遂行を支援する相談役を設ける。

理由 今後会員が増加すると、現在の理事の数では拡大する業務に対応できない。理事を増やすことが一番の解決策であるが、業務が広範であることから引き受けることのできる会員が少ない。

このため、理事より業務範囲の狭い相談役を設けることで、会員の業務遂行への参加を拡げ、会の業務遂行能力の強化をはかる。

②理事会の業務を事業単位に分割

理由 理事会の業務を事業単位に分割し、機動的な業務運営を行う。

③情報システムの確立

理由 会員の増加に合わせ、SNSの活用等し会と会員間、会員間の情報共有の迅速化、確実化のできるシステムを構築する。

3. 事務局・事業の施策

(1) 事務局

①事務局業務の実施

②広報活動の活発化

(2) 研修・研鑽事業

① 研修体系の確立

多岐にわたる研修内容、研修方法を体系化する。

② 研修会の企画

土づくりに関する業界の情報を収集し、会員のニーズに合った研修の内容・方法を研究・企画する。

③ 研修会の実施

(3) 会員交流事業

① 会員交流会の企画

アンケートによると交流会（懇親会）の開催の希望が多かったなのでその開催方法等を検討する。

② 会員交流会の実施

(4) 会員活躍推進事業

① 研究部会活動の支援

アンケートの結果を受け研究部会活動の在り方を検討（現状の研究部会では重い？）する。既にある研究部会の活動支援（予算の付与等）する。

② 会員活躍の場の企画・開発

都市農地活用センターの人材派遣事業の活用、学校菜園への講師派遣など従来にはない新たな会員の活躍の場を検討する。

(5) 検定試験講習会事業

① 検定試験普及活動

講習会にあわせて検定試験について案内を行う。

② 検定試験講師の養成

新たな講習会の講師を養成するために必要な事項（インセンティブなど）を検討し、実施する。

③ 検定試験講習会の企画

講習会そのものの企画や講師用教材を作成し誰でも講師が出来るようにする。

④ 検定試験講習会の開催

⑤ 検定試験会場設置

(参考) アンケート結果抜粋

1. 会の活動全般にかかるアイデア等

- ・なかなか参加出来ない私としては、何時でも時間が出来た時に、アクセスして情報が得られる窓口を作って欲しいです。
- ・土作りに関してのライブラリ等があると参考になる。例えば沢山あるバイオステミユラント資材などで、 と言うものがどういう効果が有るかなど。
- ・ウェブの生映像で現場を説明して見せてくれる、質問もできて、行った気になる方法。現場の説明や会社の研究所訪問を生映像の配信でやったらいかがでしょうか。ディスタンスの関係から実際行くのは 5～10 名くらいにして、後の人には配信するやり方でいかがでしょうか。私の希望として、片倉コープアグリ(株)の研究所を訪問したいと思っています。
- ・圃場等屋外での現地調査等、密にならずに実施できる範囲で研究イベントを再開できたら幸甚です。
- ・現状、県境を越える移動はしにくいこともあり、自分自身の住まいがある都内での研修があるとよいと思っています。実施可能かや研鑽として認められるかなどわかりませんが、私の勤める会社で関わっている都内公園（農業公園や花壇管理を行っている公園）の見学などを行い、公園等の土の状況を知るといった機会が提案できたらと考えています。私と同様に都内にお住まいで遠距離の移動を懸念されている方がいらっしゃるようでしたら、研修の一つとして検討したいと思っています。
- ・また、現状、Zoom 研修が主となっていますが、都合が合わない場合も、後日研修に参加できる（録画 など）と良いと思っています。勤務する会社では、そういった方法も行っています。
- ・コロナ対応を万全に行う形での、少人数での活動を一部実施。 ・BCP 訓練の社内横展開を図る為、コンサル企業の方と、研修方法を模索中です。
- ・良い仕組みが出来ましたら、皆様にご報告出来ましたらと存じます。
- ・生憎、アイデアが浮かびません。
- ・申し訳ありません。現状、オンライン以外の案が思い浮かびません。
- ・会員へのいろんな会社の新技術紹介等
- ・今の状況では最善の方法だと感じます。収まったら交流、活動の場をお願いします。
- ・屋外の現地研修会であれば、適切な対策を取った上で開催できるのではないのでしょうか？
- ・大学等も徐々に対面授業が始まっています。
- ・現場のサポートが土壤医の役割の 1 つであるならば、もっと現場の声を聞きたいと思います。
- ・一方、セミナーや講習会など、知識を深める機会は、ZOOM 活用が効率的でいいと思います。
- ・コロナ禍の ZOOM 活用はいいと思います。ZOOM 土壤医検定合格祝賀会はどうでしょうか。

2. 実施して欲しい研修

- ・土壤診断の読み方と、考え方、農協、土の会等
- ・土壤検査キットみどり君についての講習

- 連作障害を防止するための微生物資材を使った安価で効果的な土壌改良資材の作り方、使い方等。
- 農業ハウス内での無農薬栽培の方法
- 土壌に関する新しい技術など情報提供があると嬉しいです。
- 家庭菜園、市民農園、ガーデニングにおける土づくり 伝統土壌改良（客土）「ドロツケ」について
- 堆肥の作り方と活用方法
- プランター栽培で使った土のリサイクルのより良い方法
- 家庭菜園（ベランダ菜園）でよくある病害虫とその対策
- 地域活動で、「花と緑の会」という名称で年に3回ぐらいの活動があります。その際に、お花の上手な植栽の方法 や、長持ちさせるコツ等が説明出来ると嬉しいです。
- キュウリ農家さんで、根こぶせんちゅうに困っています。一緒に解決策を練りたいので知識や知恵を学びたいです。
- 処方箋の作成のプロセスの研修、
- 多種多様な植物を取り入れるガーデンでの土づくり
- モグラの撃退方法
- 土壌診断と減肥のテクニック、土壌の性質と施肥のポイント、栽培植物ごとの品質をあげるポイントおよびテクニック、SDGs と農業など
- プロの生産者以外のアマチュアの方（市民農園や家庭菜園）、プランターや鉢物向けの土の話も間口を広げるのに 重要と考えます。
- 身近な野菜・園芸等についての土づくり研修。（土質により土づくりが違います。初歩から研修してくれる所がないように思います）
- 害虫対策 花卉、野菜、果物
- 土壌物理性の簡易検査方法
- バラ栽培のノウハウ、土づくり、害虫駆除ノウハウなど
- 国や地方の農業政策に関すること
- 農業法人に関すること
- I T技術を利用している生産者へのヒアリングや見学
- 生産者が使っている肥料や農薬の実態～何をどれくらい使っているのか？など
- 「持続可能」「SDG s」を主体とした土作や栽培管理 実

3. 講師としてお招きしたい方

- 武田健
- 木嶋利男先生（伝統農法文化研究所（栃木市）主宰）
- 後藤逸男先生 東京農業大学
- 藤井一至先生 森林総合研究所
- 若林正吉先生
- 土壌学の松中照夫先生、
- 藤原俊六郎先生、

- 葡萄栽培家の小林和司先生、
- 食と農の健康研究所 の渡辺和彦氏
- 『土 地球最後のナゾ 100 億人を養う土壌を 求めて』の藤井一至氏
- 東京農業大学名誉教授の後藤逸男氏
- 根の森田茂紀先生
- 「検証有機農業」などの著者の西尾道德先生
- 多種にわたる農業経験者
- 農研機構、帯広 池田先生 微生物専門

4. 会員の活躍の場創出のアイデア

- 農業大学校の短期学科に対して講師をする
- 農業高校、農業大学等に積極的に出前研修を行う。
- 出前研修のためのマニュアルを作成する。（研修項目）土壌の物理性では、穴を掘っての実践的研修
土壌の化学性では、圃場の EC、pH の測定 土壌の生物性では、土壌動物の観察等
- 研究部会で取り組んでいるが、首都圏土壌医の会で市民農園等小規模圃場の土づくりマニュアルを作成する。
- ガーデナーを対象としたガーデニング土づくりマニュアルを作成する。
- 各地にある市民菜園等での栽培相談や土づくり相談への協力（市役所等への働きかけ？）
- 上記の農業高校、農業大学校の特別講師を務めることに賛成です。また、そのためにも首都圏土壌医の会としての発信が必要なのではないかと思います。首都圏土壌医の会のホームページでコラム的なコーナーを作り、活動を周知していく方法も良いのではないかと思います。
- 小学校も楽しいかと思います。若い内から草花や、樹木への興味を持ってほしいです。
- 過去（今後）の研修会で講師の発表を講師の方の了承を得て文字起こし（テープ起こし）して、報告集としてまとめる
- お悩み相談は非常に良いかと思いますが、先だって試験的に会員の皆様の中で行なって見るのがよいのではないのでしょうか。
- 会員それぞれの地域での農業関係イベントへの参加等、
- テーマを決めて新技術評価、結果発表
- 特にありません
- 地方自治体と連携した、一般市民向けの土づくりセミナーの開催
- 植樹祭等のボランティア活動
- データ駆動型土作り推進事業への積極的な参加

5. 会員の交流方法のアイデア

- 定期的に zoom などで会員各位の顔が見える化を行なって、テーマを決め議論する。

- 上の3番目と5番目に賛成です

3番目 小委員会で活動を行い、発表を行う。

5番目

- 研修会開始時間を若干遅めに設定し、終了後のZoom飲み懇親会で交流を図る。
- (コロナ禍が落ち着いて、安心して往来が出来るようになったら) 懇親旅行会を行う。
- メーリングリストの活用
- 毎月あるいはふた月に1回程度会員の土づくりの実践報告会を行う。
- ZOOMを利用した懇親会など
- コロナがおさまってからですが、会員の方のいろいろな活動場所を見学してみたいなと思っています。
- Zoom飲み、楽しいです。でも、マックス8人ぐらいかなと存じます。
- 現地集合現地解散での、圃場見学会の企画、読書会の開催。
- 各会員の得意分野を研修会で定期的に発表してもらう
- オンラインでの交流はコロナ禍が終息したら行なうことが望ましいと思います。その上で、zoomなどを用いて会員の方が取り組まれている事例、課題、成功例を共有するような場を設けて頂くと良いのではないかと思います。講演のようなしっかりした内容ではなく、今、〇〇の収量が落ちてきて悩んでるとか、もっと作業効率を上げたいけど皆さんどうしていますか、とか会員の方が直目している課題について皆で解決策を模索する取り組みは参加者全員に貴重な体験となるのではないかと思います。
- 班を作り班単位での活動(少人数)募集～開催を掲示板などで告知。
- 小委員会活動が良いと思います。
- コロナ禍が落ち着いたら、農地見学(特徴のある土づくり)
- 特に考え付きません
- facebookやLINEの交換やグループの作成
- 各小委員会が集まりそれぞれの活動報告や意見交換をする機会があってもいいと思います。

首都圏土壤医の会中期計画（2021年～2023年）

施策	担当理事 相談役	R 3（2021年度）	R 4（2022年度）	R 5（2023年度）
		年度末会員数60名	年度末会員数80名	年度末会員数100名
(1) 研修・研鑽事業 ①研修体系の確立 ②研修会の企画 ③研修会の実施				
(2) 会員交流事業 ①会員交流会の企画 ②会員交流会の実施				
(3) 会員活躍推進事業 ①研究部会活動の支援 ②会員活躍の場の企画・開発				
(4) 検定試験講習会事業 ①検定試験普及活動 ②検定試験講師の養成 ③検定試験講習会の企画 ③検定試験講習会の開催 ④検定試験会場設置				
定期開催 環境整備		6月▼総会 理事会▼▼▼▼▼▼ 理事会、意見交換会の試行	6月▼総会 理事会▼▼▼▼▼▼ 理事会、意見交換会定期開催	6月▼総会 理事会▼▼▼▼▼▼ 理事会、意見交換会定期開催